

# LM・オーストラリア・インカム・アロケーション・ファンド (年2回決算型) <愛称: オージーインカム>

追加型投信/海外/資産複合

## 償還 交付運用報告書

第11期(償還日2021年3月25日)

作成対象期間(2020年12月1日~2021年3月25日)

| 第11期末(2021年3月25日) |            |
|-------------------|------------|
| 償 還 価 額           | 11,579円99銭 |
| 純 資 産 総 額         | 123百万円     |
| 第11期              |            |
| 騰 落 率             | 3.2%       |
| 分配金(税込み)合計        | -円         |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・オーストラリア・インカム・アロケーション・ファンド(年2回決算型)<愛称: オージーインカム>」は、2021年3月25日に約款の規定に基づき、繰上償還の運びとなりました。

当ファンドは、インカム収入の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に対しまして、厚くお礼申し上げます。

### レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社は、2021年4月1日付でフランクリン・テンブルトン・インベストメンツ株式会社を吸収合併し、商号を「フランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社」に変更する予定です。

### お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

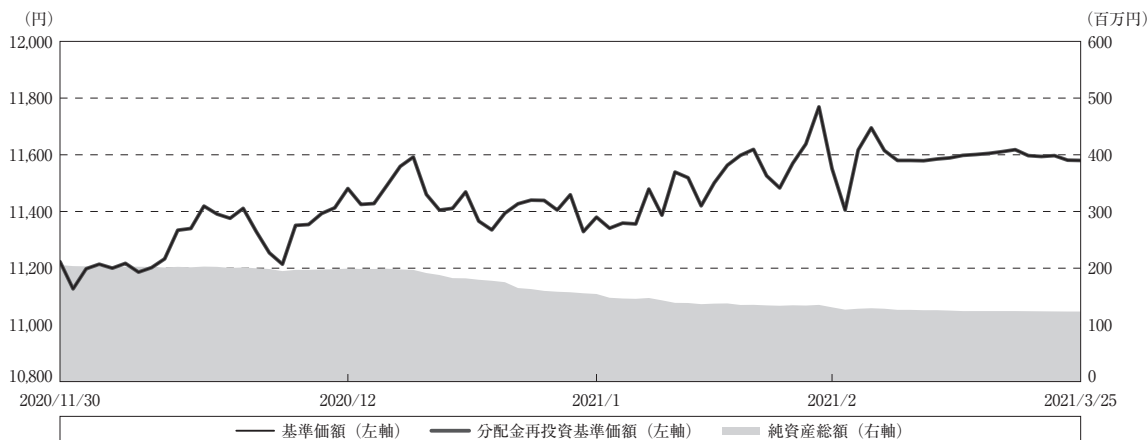
(営業日の9:00~17:00)

<https://www.leggmason.co.jp>

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

（2020年12月1日～2021年3月25日）



期 首： 11,223円  
 期末(償還日)：11,579円99銭(既払分配金(税込み)：-円)  
 騰 落 率： 3.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2020年11月30日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の主な変動要因

当期の当ファンドのパフォーマンス(騰落率)はプラスとなりました。

豪ドル・円相場が豪ドル高・円安となったことから、為替損益がプラスとなりました。一方、株式要因については、オーストラリアのリート市場や公共事業セクター等の下落を背景に、マイナスとなりました。公社債要因については、公社債利金を手堅く確保しましたが、債券利回りの上昇を受けて、公社債損益がマイナスとなりました。

1万口当たりの費用明細

(2020年12月1日~2021年3月25日)

| 項 目  | 当 期                        |  | 項目の概要   |
|--|----------------------------|--|---|
|  | 金 額                        | 比 率                                    |   |
| (a) 信託報酬<br>(投信会社)<br>(販売会社)<br>(受託会社)       | 61<br>(30)<br>(30)<br>( 2) | 0.535<br>(0.260)<br>(0.260)<br>(0.016) | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率<br>委託した資金の運用の対価<br>交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価<br>運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価              |
| (b) 売買委託手数料<br>(株 式)<br>(投資証券)<br>(先物・オプション) | 1<br>( 0)<br>( 1)<br>( 0)  | 0.007<br>(0.002)<br>(0.005)<br>(0.000) | (b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数<br>売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料   |
| (c) その他費用<br>(保管費用)<br>(印刷等費用)               | 2<br>( 1)<br>( 1)          | 0.015<br>(0.005)<br>(0.010)            | (c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数<br>保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用<br>印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用 |
| 合 計  | 64                         | 0.557                                  |   |
| 期中の平均基準価額は、11,408円です。                        |                            |  |   |

(注) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

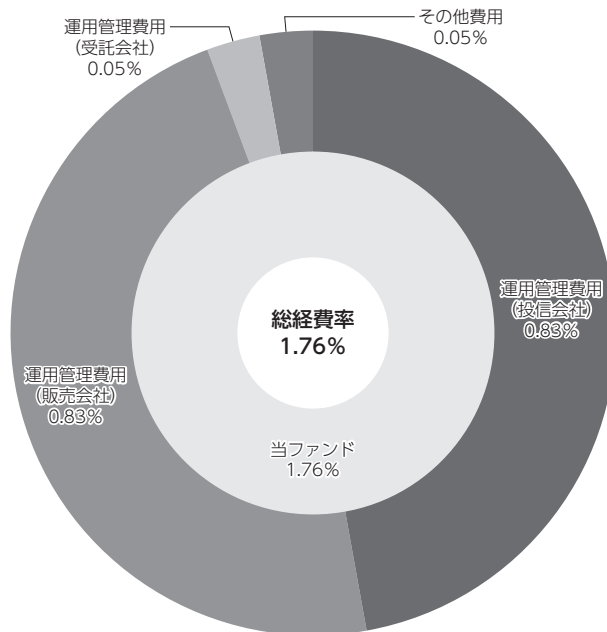
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

**（参考情報）****○総経費率**

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.76%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

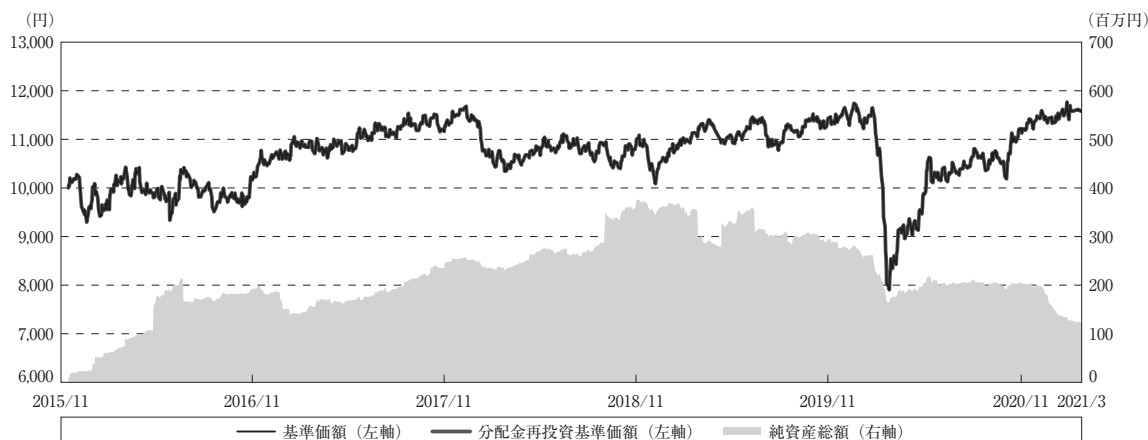
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

（2015年11月30日～2021年3月25日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2015年12月15日です。

|                   | 2015年12月15日<br>設定日 | 2016年11月28日<br>決算日 | 2017年11月28日<br>決算日 | 2018年11月28日<br>決算日 | 2019年11月28日<br>決算日 | 2020年11月30日<br>決算日 | 2021年3月25日<br>償還日 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 基準（償還）価額 (円)      | 10,000             | 10,166             | 11,162             | 10,881             | 11,414             | 11,223             | 11,579.99         |
| 期間分配金合計(税込み) (円)  | —                  | 0                  | 0                  | 0                  | 0                  | 0                  | —                 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | —                  | 1.7                | 9.8                | △ 2.5              | 4.9                | △ 1.7              | 3.2               |
| 純資産総額 (百万円)       | 9                  | 190                | 235                | 371                | 294                | 205                | 123               |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
 ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2016年11月28日の騰落率は設定当初との比較で、償還日の騰落率は償還日の直近の決算日との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率およびリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

## 投資環境

（2020年12月1日～2021年3月25日）

当期のオーストラリア株式市場全体は、上昇しました。一方、当ファンドが主要投資対象としているリート・セクターおよび公益事業セクターについては下落しました。

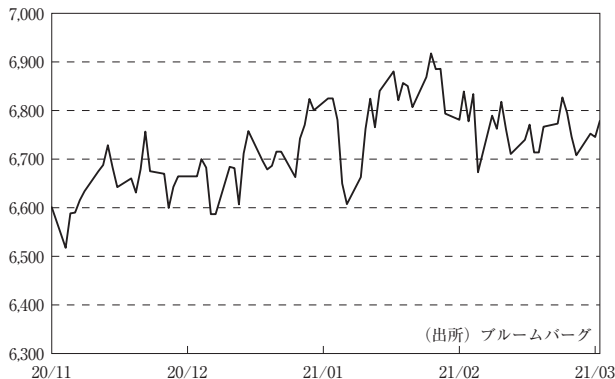
期の前半から半ばにかけては、新型コロナウイルスのワクチンの普及を受けて、経済活動正常化への期待が高まったことなどから、株価は上昇しました。

期の後半は、景気回復期待の高まり等に伴い、債券利回りの上昇（価格は下落）が加速したことなどから、株価は上値の重い展開となりました。

当期のオーストラリア債券市場は、短期債利回りが前期末比ほぼ変わらずとなる一方、中長期債利回りは上昇しました。

当期においては、主要国での新型コロナウイルスのワクチン普及により世界的な景気回復への期待感が高まったことなどから、利回りは中長期債を中心に上昇しました。

オーストラリア株式指数（ASX200）の推移



オーストラリア10年国債利回りの推移



当期の豪ドル・円相場は、豪ドル高・円安となりました。

世界的な新型コロナウイルスのワクチンの普及を受けて世界経済の正常化に対する期待が高まったことや、オーストラリアの債券利回りが上昇し、日豪金利差の拡大が意識されたことなどから、豪ドルは対円で上昇しました。



## 当ファンドのポートフォリオ

(2020年12月1日～2021年3月25日)

当ファンドは、主に「LM・豪ドル債券マザーファンド」受益証券および「LM・豪州インカム資産マザーファンド」受益証券への投資を通じて、豪ドル建の公社債およびオーストラリアの証券取引所に上場している株式および不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行い、インカム収入の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。原則として、マザーファンド受益証券の基本投資割合は50対50としました。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんでした。

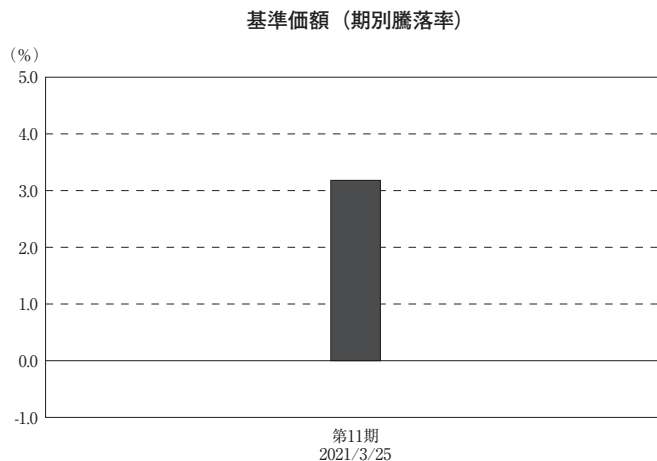
当期においては、株式・不動産投資信託等では配当利回りに着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資を行いました。また、オーストラリア株式市場全体に比べてLM・豪州インカム資産マザーファンドの中長期的な値動きを小さく抑えることを目指してポートフォリオを構築しました。公社債では、金融債、リート・セクター、公共事業セクター等を中心とした社債を引き続き厚めとしました。金融債の組み入れにおいては、カバードボンド（債権担保付社債の一種）、大手金融機関が発行する流動性・信用力が相対的に高い債券等を組み入れの中心としました。また、LM・豪ドル債券マザーファンドのポートフォリオ全体の平均格付けは引き続き高位に保ちました。なお、インカム資産および債券への投資比率は、基本投資割合である50対50程度としました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年12月1日～2021年3月25日）

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率およびリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

受益者のみなさまにおかれましては、これまで当ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございました。



## お知らせ

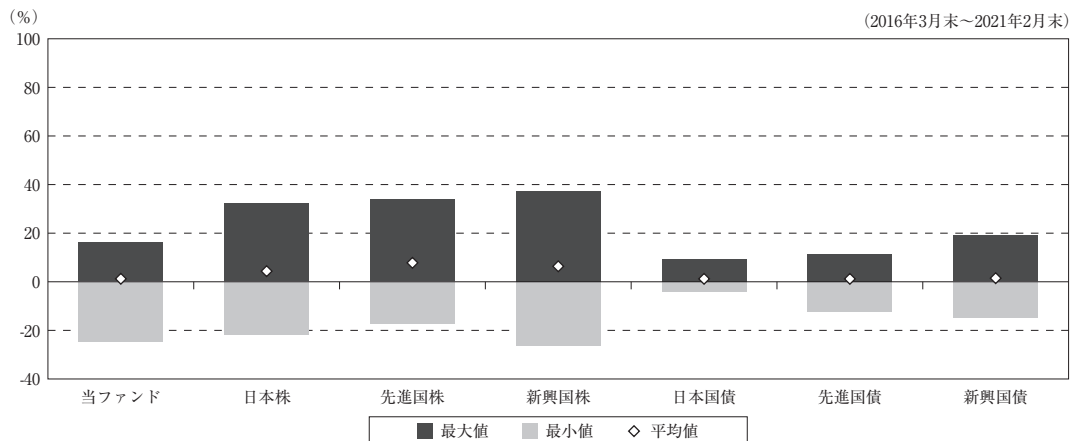
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 商品分類   | 追加型投信／海外／資産複合   |   |
| 信託期間   | 2015年12月15日から2025年11月28日まで  |   |
| 運用方針   | 主に豪ドル建の公社債およびオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行い、インカム収入の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。 |   |
| 主要投資対象 | 当ファンド   | LM・豪ドル債券マザーファンドおよびLM・豪州インカム資産マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とします。          |
|        | LM・豪ドル債券マザーファンド   | 豪ドル建の公社債を主要投資対象とします。  |
|        | LM・豪州インカム資産マザーファンド  | オーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券を主要投資対象とします。            |
| 運用方法   | 当ファンド   | 株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%以内とします。<br>外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。  |
|        | LM・豪ドル債券マザーファンド   | 株式（新株引受権証券等を含みます。）及び転換社債等への投資は行いません。<br>外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 |
|        | LM・豪州インカム資産マザーファンド  | 株式への投資割合には、制限を設けません。<br>外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。                 |
| 分配方針   | 決算日（原則として毎年5月28日及び11月28日（休業日の場合は翌営業日）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。                            |   |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

|     | 当ファンド  | 日本株    | 先進国株   | 新興国株   | 日本国債  | 先進国債   | 新興国債   |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 最大値 | 16.1   | 32.2   | 34.1   | 37.2   | 9.3   | 11.4   | 19.3   |
| 最小値 | △ 24.8 | △ 22.0 | △ 17.5 | △ 26.3 | △ 4.0 | △ 12.3 | △ 15.0 |
| 平均値 | 1.2    | 4.4    | 7.8    | 6.4    | 1.2   | 1.2    | 1.5    |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年3月から2021年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2016年12月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI 国債

先進国債…FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2021年3月25日現在)

2021年3月25日現在、有価証券等の組入れはございません。

### 純資産等

| 項 目        | 第11期末(償還日)   |
|------------|--------------|
|            | 2021年3月25日   |
| 純資産総額      | 123,560,420円 |
| 受益権総口数     | 106,701,650口 |
| 1万口当たり償還価額 | 11,579円99銭   |

\*期中における追加設定元本額は1,518,061円、同解約元本額は77,873,877円です。

組み入れているマザーファンドの直近の計算期間の内容につきましては、償還報告書（全体版）に記載しております。